



台東区ジュニア・オーケストラ からのお知らせ

台東区ジュニア・オーケストラとは

演奏活動を通して情操と協調の精神を養うとともに、本区の文化発展に寄与することを目的に、昭和55年12月に創立されました。小学3年生から高校生年代までの団員・教室生で活動しています。

団員オーディション

あなたも一緒に演奏しませんか?ジュニア・オーケストラでは、新たに仲間になる団員を募集しています。

	団員	初級教室	養成教室
オーディション日程	4月8日(土)	4月15日(土)	
時間	午後4時～	午後2時～	午後1時30分～
場所	台東区立浅草小学校音楽室(花川戸1-14-15)		
対象	小学4年生～中学生 (区内在住・在学の方)	小学3年生～6年生 (区内在住・在学の方)	
募集パート	弦、木管、金管、打楽器	弦(バイオリン、ピオラ、チェロ)、コントラバス(初級教室のみ)	
費用(団費)	年間12,000円	年間6,000円	
申込締切	4月6日(木)	4月13日(木)	
申込方法	下記お問合せ先へ電話又は申込用紙に記入し、郵送か持参(申込用紙は生涯学習センター5階生涯学習課、区ホームページ、区内小・中学校で配布しています。)		



▲第39回ファミリーコンサートの様子(令和4年9月4日)



台東区上野の森ジュニア合唱団 からのお知らせ

台東区上野の森ジュニア合唱団とは

合唱を主とする演奏活動を通して青少年の情操と協調性を養うことを目的に平成2年に設立されました。

年3回の自主演奏会実施の他、外部演奏会の出演等の活動を行っています。

団員募集

あなたも歌や楽器に親しむ合唱団の一員になりませんか?

	団員
面接日程	4月15日(土) 午後3時30分～
対象	小学2年生～中学生(区内在住・在学の方)
練習	毎週水・土曜日午後4時30分～7時(入団生は通常練習に代えて、月2～3回午後3時30分～5時の初期練習が受けられます)
場所	生涯学習センター
費用(団費)	年間12,000円
申込締切	4月8日(土)
申込方法	ご希望の方は下記お問合せ先までご連絡ください。



▲ウィンターコンサート'22の様子(令和4年12月25日)



台東区少年リーダー研修会 からのお知らせ

台東区少年リーダー研修会とは

小学4年生から高校生年代までを対象とした、レクリエーションや野外活動などを行う研修会です。異年齢集団での活動を通し、自主性・社会性・創造性を身につけ、地域の青少年団体や仲間同士・学校等で良きリーダーシップを發揮できる青少年の育成を目指します。

主な活動

- ▶ 定例研修会: 毎月第2土曜日(8月を除く)
- ▶ 霧ヶ峰宿泊研修: 8月(3泊4日)
- ▶ ハイキング: 10～12月(日帰り、年1回)
- ▶ 中級研修会: 2月～6月の第4土曜日 ※中学生対象
- ▶ 上級研修会: 毎月第3水曜日(8月を除く) ※高校生年代対象
- ▶ 中級・上級キャンプ: 5月(2泊3日) ※中学生・高校生年代対象など



▲令和4年8月霧ヶ峰宿泊研修の様子

毎年2月下旬～3月に、次年度の研修生を募集しております。生涯学習センター5階、又は、各区立小学校に配布される申込書にてお申込みください。

●お問合せ先: 生涯学習課社会教育担当 TEL 5246-5821

リレートーク

連載 38

江戸の寺子屋と現代の教育

台東区教育委員 浦井 祥子



台東区では今年、江戸を舞台とした多くの小説を書いた池波正太郎の生誕100年を記念した催しが行われます。また、今年是大河ドラマも江戸幕府の創始者徳川家康をテーマとしており、江戸時代についてスポットのあたる年となっています。そこで、この機会に、江戸時代と現代の教育について、少し触れてみたいと思います。

江戸時代、庶民の教育の中心となっていたのが、いわゆる寺子屋(手習い)です。寺子屋における教育は、しばしば現代の教育と比較して語られますが、その多くがその個別指導的な教育を高く評価するものです。これはもちろん間違いではありませんが、一口に寺子屋と言っても、実際には様々

なものがありました。ある寺子屋では優秀な師匠のもとで道徳的なものも含めた質の高い教育が行われている一方、ある寺子屋では子どもが言うことをきかず、学級崩壊とも言える状況になっているという具合です。

寺子屋の師匠には、幕府の許可や試験などは必要なく、誰でも自由になることができました。江戸初期は僧侶などが多かったと言われますが、後期になると庶民の間でも教育への熱が高まってそのニーズが増えたこともあり、浪人や医師、村役人などが師匠となる例も増えていきます。結果、とくに都市部では、相当な数の寺子屋があったと言われます。

寺子屋での個別教育は、現代における進学塾の個別指導にあたるものと考えてよいでしょう。何を使って何をどう学ばせるか、導く師匠の実力が問われます。現代の義務教育のように、子供の教育の権利が保障され、その基本的な内容が定められているわけではありませんから、どの寺子屋で子どもを学ばせるかという親の選択は非常に大きいものであり、また家庭でのしつけも大切でした。

私も現在、小学生の子どもがおりますが、現代もこうした基本的な構図は変わらないと思います。今も昔も、それぞれの子どもの立場に立って、何が必要かを考える「子ども本位の教育」が必要だということなのだと思います。

